

除草剤試験の手法 (7)

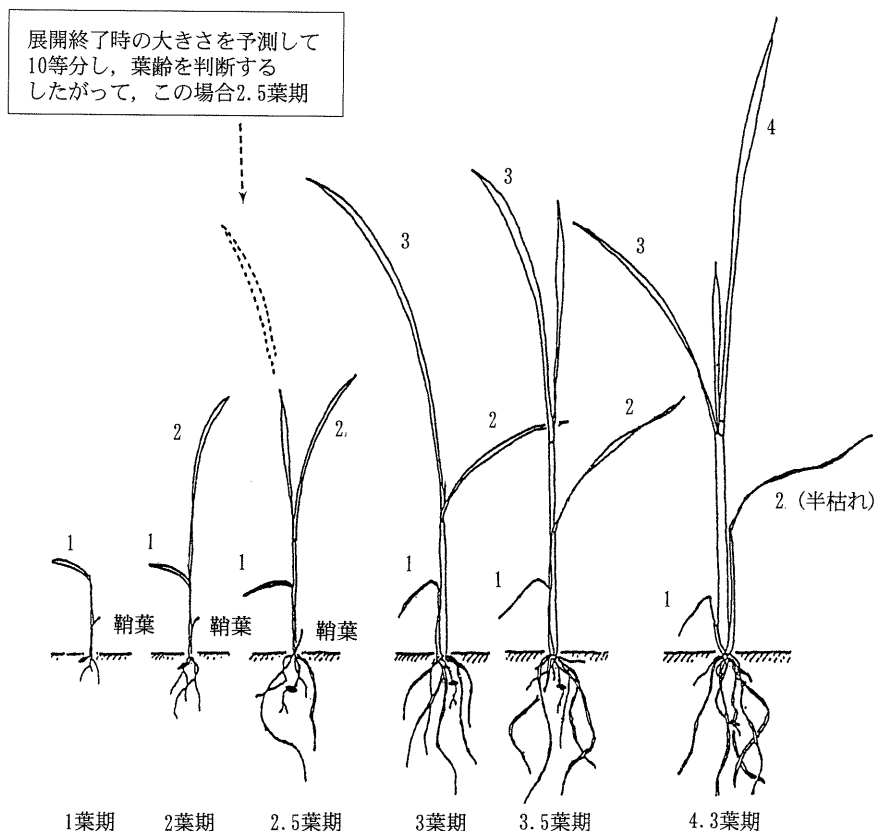
－ 雑草の葉齢の数え方 －

水稻除草剤試験では、処理時期の指標が雑草の葉齢で示されることが多く、また殺草適期幅を把握するため処理時には草種別に葉齢を調査することになっている。従って葉齢の数え方は統一しておく必要があり、「水稻除草剤試験実施基準」に定められているが、コナギ、一年生広葉雑草の葉齢の数え方が一部見直されたので

改めて葉齢の数え方について雑草草種別に説明する。

1). ノビエ (タイムビエ, イヌビエなど)

水稻と異なり、鞘葉 (coleoptile) の次にすぐ本葉が抽出する (不完全葉はない)。葉期は本葉より数える。伸長中の葉は伸長が完了した時点の長さ (予測) を1として少数で表す (図



この頃には1葉は枯れ、消失する

図-1 ノビエの葉齢
(展開中の葉は展開終了時の長さを予測して少数で表示する。)

ー1)。試験区の水深によっては葉の長さが異なってくるため注意が必要である。

水稲除草剤試験では処理時期がノビエの葉齢で示されることが多いので葉齢の読み違いのないよう注意を要する。その際、試験設計で例えば「処理時期；ノビエ2.5葉期に処理する」と表示された場合は発生したノビエ群の最高葉齢が2.5葉期に処理するということ、平均的な葉齢が2.5葉期の時を指すのではない。試験区に指定葉期を越えた個体があった場合はこれを取り除いておく。

2). ホタルイ類 (イヌホタルイ, タイワンヤマ イなど)

ホタルイは多年生草種であるが、一部の地域を除き本田では種子発生が多い。種子からは最初に鞘葉 (coleoptile) が伸長し、つづいて線形葉 (本葉) が順次展開、4～6枚展開した後花茎が伸長する。葉齢は鞘葉を数えず線形葉 (本葉) の葉数で示し、伸長中の葉は伸長が完了した時点の長さ (予測) を1として少数で表す (図-2)。

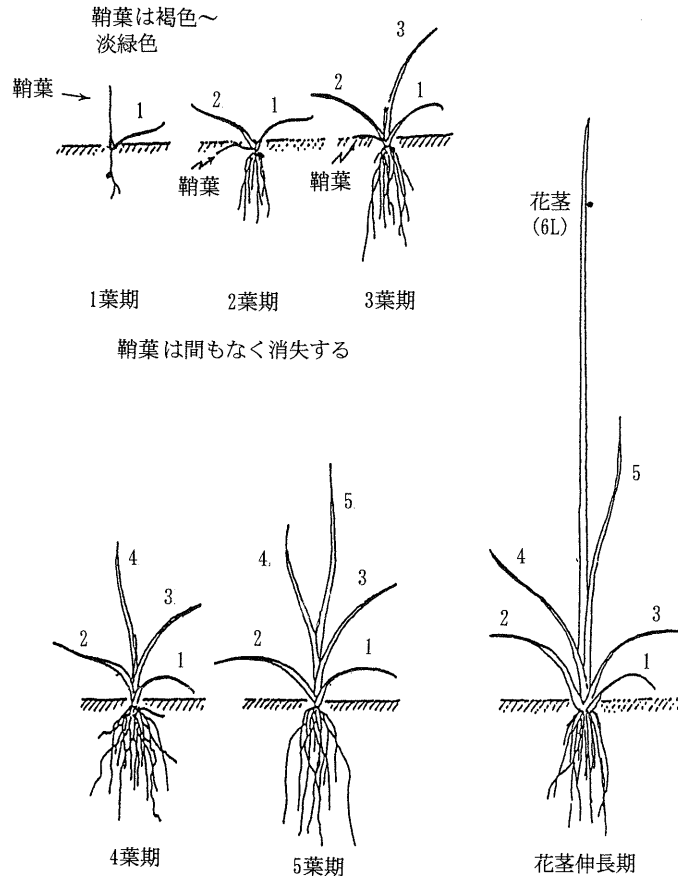


図-2 ホタルイの葉齢
(展開中の葉は展開終了時の長さを予測して少数で表示する。)

3). コナギ

最初カヤツリグサ科に類似した線形の子葉が抽出するが先端に種子の殻を付着させているので容易に判別できる。以前は子葉を第1葉と数えていたが、これを数えず、続いて展開する線形用から数える(図-3)。線形葉が5~6枚

現れた後、葉柄の伸びた舟形葉が展開し、以後順次卵状披針形葉、卵形葉、心臓型葉などが展開する。これらの時期の表現としては、例えば、心臓形葉2枚などと表す。

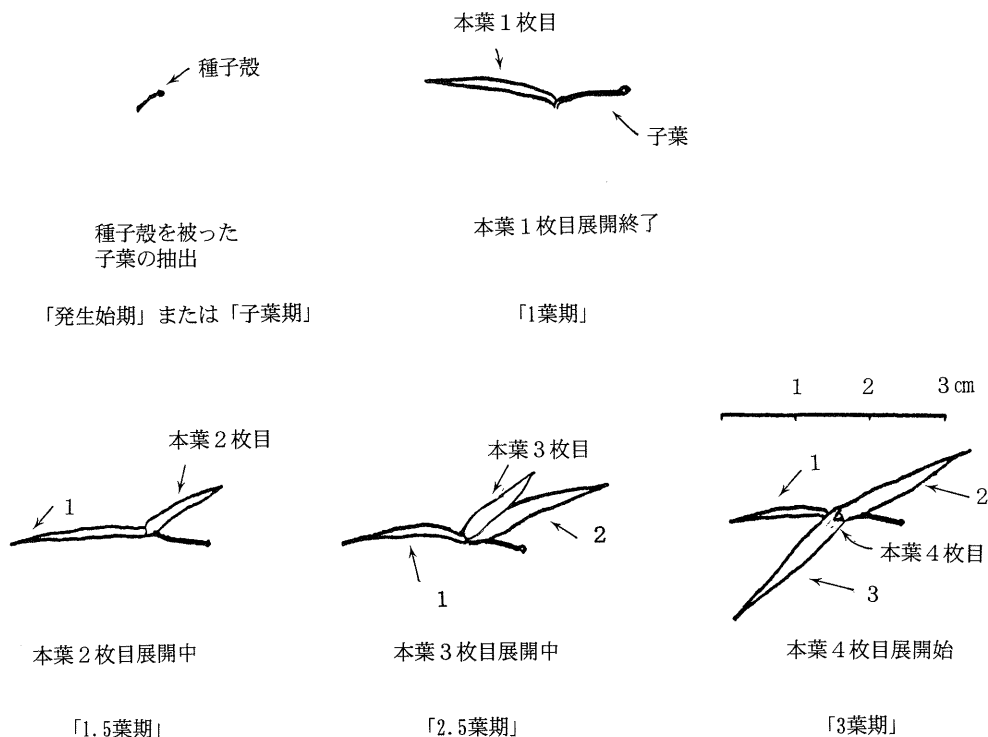


図-3 コナギの葉齢
(本葉から数え、展開中の葉は展開終了時の長さを予測して小数で表示する。)



4). 一年生広葉 (アゼナ, キカシグサなど)

アゼナ, キカシグサなど対生葉は1対で1葉と数える。以前は子葉を第1葉と数えていたが、子葉は数えず本葉から数える (図-4)。

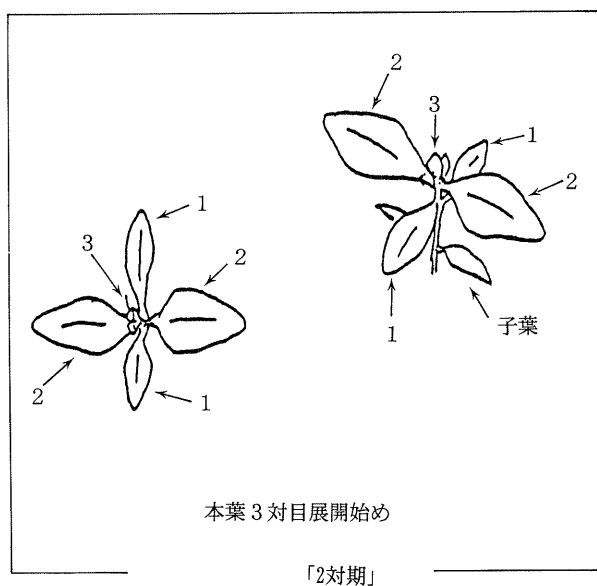
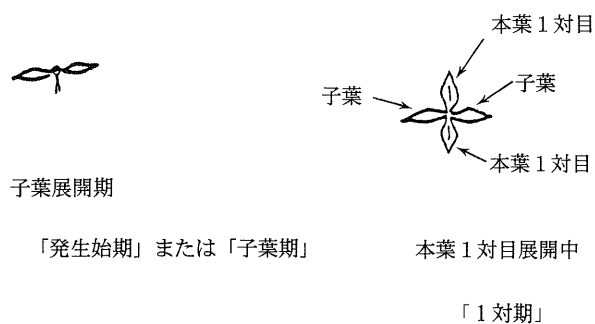
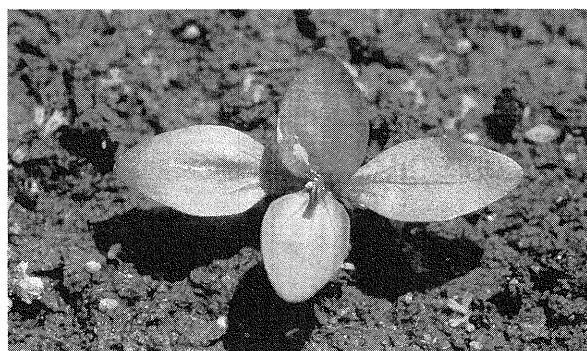


図-4 アゼナの葉齢
本葉から数え, 1対を1葉とする。



5). ミズガヤツリ

最初、頂芽基部に舌状葉（3枚程度）が現れるが、これは葉数に数えず、葉身と葉鞘とが区別できるものから数える。当該葉が伸長途中で

あっても次の葉が展開を始めた場合、当該葉は伸長を完了したものとして数える（図-5）。また、草丈も測定しておき、2葉期（7 cm）など并表示する。

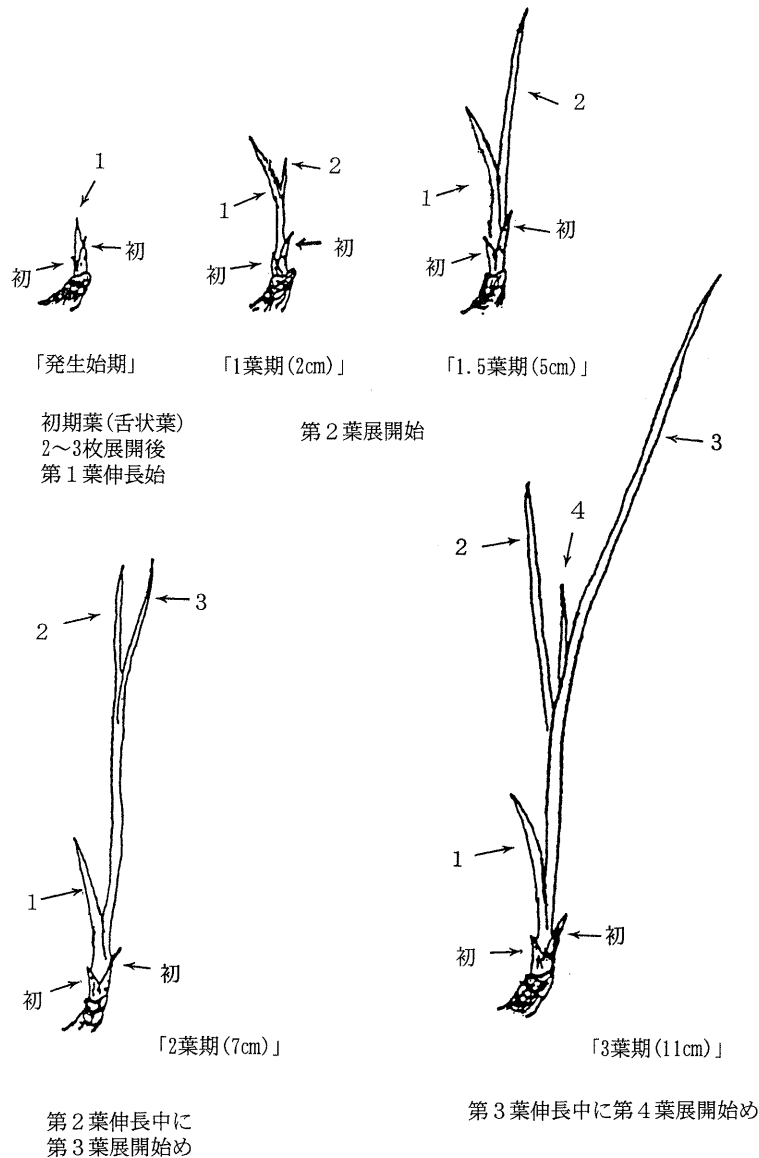


図-5 ミズガヤツリの葉齢

(初生葉(舌状葉) 2~3枚を除き、葉身と葉鞘とが区別できるものから数える。次の葉が出かかっている場合は、当該葉は完全に展開したものとして数える。草丈も併記する。)

6). ウリカワ

最初は線形葉が2～4本展開するがこれは数えずに広線形葉から数える(図-6)。判別が

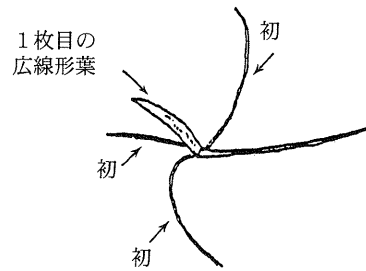
難しい場合もあるので、線形葉の本数も数えておくといよい。



線形の初生葉(鱗片葉)

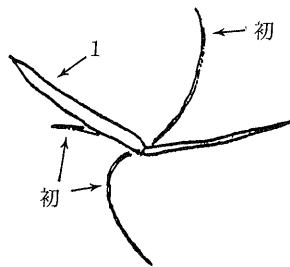
2～3枚

「発生始期」

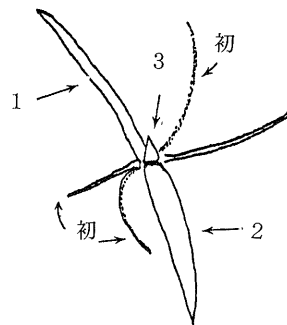


広線形葉1枚目展開

「0.5葉期」



「1葉期」



3枚目の広線形葉展開始

「2葉期」

図-6 ウリカワの葉齢測定

(線形葉は数えず広線形葉から数える(線形葉数も控えておく)。次の葉が出かかっている場合は、当該葉は完全に展開したものとして数える。)